

「小学校の学区再編整備に関する検討（案）」に寄せられた意見の概要

1 意見の募集期間

平成26年4月15日（火）～5月9日（金）

2 寄せられた意見の件数

提出者数 3名（メール3）

3 意見募集を行った内容

（1）将来の町内小学校学区の再編の方向性（考え方）について

①児童数の推移に基づき教育効果の充実を図るため、小学校の適正配置（再編整備）について検討する。

②子どもたちの教育環境の向上を優先とする。

※教育環境の向上；適切な学校規模（社会性・協調性の育成）

③児童の教育環境を維持するうえで、当面、1学年1学級以上（複式学級の解消）の編成を適切な学校規模とする。

④当分の間、平成18年計画にある2校案を視野に入れつつ、今後、概ね10年以内に統廃合の個々の検討を進め、再編後の町内小学校数□校をめざす。（□校については、今後、具体的な学校数を検討するものです。）

（2）学区再編の基準・ルール化について

※統廃合を検討する基準、検討の開始段階をいつにするか

①これから複式学級が発生すると見込まれる1～2年前から

②完全複式学級の学級編成が見込まれる1～2年前から

③地域や保護者（PTA）等の合意を得て、検討要請を受けた次年度から

4 意見の内容

No.	概 要	内 容
1	学区再編の考え方について	20歳になった時の子供たちの姿を見据え教育していく中で、社会適応能力を培うためにいくら中学校で1校になりコミュニケーション能力は十分培われるといっても、子供達は小学校と中学校では捉え方が違うと思うので小さいうちに培った能力が成人した時の能力になると思うので、なるべく小さいうちからたくさんの人と接してもらいたい。 自分の子供が複式になった時に先生の対応が心配ですが、学力に関しては、通信教育や塾などもあるので心配していませんし、目が行き届かないという声もあるが、自分で考え、行動する能力も小さいうちから培ってほしい。 地域の衰退という声があったが合併になれば小学校はなくなるわけだが子供は住み続けるわけで地域の事は、大人が考え行動する

		べきで学校統合問題に関しては地域ではなく子供達の事を優先に考えて行ってほしい。 小人数のクラスでは競争力の低下や遊びが限定され、いじめにあった時にはグループが一つしかない場合逃げ道がなくなり解決ができないと思う。少人数になった時に、特に低学年時の一人での下校が心配。 自分の子供が中学校に入ったとき感じたが、今まで1クラスの中でやってきたがいきなり5クラスの大人数の中で大丈夫かと思い、統合もいきなり1校ではなく段階をふんで統合していったらいいのではないかな。
2	検討開始時期の基準について	将来の子どもの数の推移をみれば、議論の必要があると思います。子供たちのことを第一に考え、地域との関わり方なども含めて、地域・保護者が納得のいくように時間をかけて進めてほしいものです。 多い少ないとかの良し悪しは意見の分かれるところですが、全校児童が20人を切るような状況が学校運営上、また、子供たちのとってはどうなのか、再編ありきではなくとも話し合う時期ではないでしょうか。
3	学区再編の考え方と再編時期について	私も子供も小規模校出身で、複式学級も経験しており、小規模校の良さは肌で感じてきたところです。 しかしながら、児童数の推移表を見ると、東沢小学校は、平成29年22人、平成30年度17人と環境は良くないと思います。運動会を例にとれば2つに分けて11人ずつ。残念ですが、それでは様々な学校運営も厳しくなると思います。きめ細やかな対応が可能というメリットはありますが、それ以上に子供たちにとって、少なすぎる人数での教育環境のデメリットのほうが大きいのではないかなと思います。 わが子が今の川西中学校に入学した特、小規模から大規模校へ入ることで、不安はありましたが友達が広がりよかったと感じています。 小規模校の良さも承知しているので、一概には言えませんが、集団の中での活動や協調性など、いずれは中学校、高校等と大きな環境へ進む過程を考えれば、平成29年度が、再編の一定の目途ではないかなと考えます。 再編は遅くても平成29年度であり、もう少し早くてもよいのかなとも思います。 ただし、きめ細やかなスクールバスの運行をお願いします。